

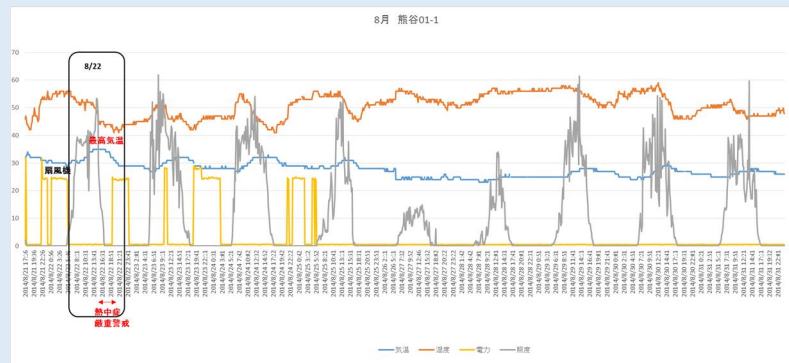
熊谷市における「高齢者世帯の住環境に関する基礎調査（熊谷市後援）」

2015.04 ワイードペコ株式会社

熊谷市の特定非営利活動法人日本福祉ネットワークと特定非営利活動法人くまがやコアラ(地域ネット「えにすべ」)とワイードペコ株式会社を窓口とした企業コンソーシアム^注が協力して熊谷市における高齢世帯の住環境(温度・湿度など)を夏から冬にかけて調査し、危険になりやすい状況や時間帯・生活スタイルを整理して、今後の支援の方法に活かそうと実施した。

^注ワイードペコ株式会社、富士通ビー・エス・シー株式会社、夢科情報株式会社、株式会社夢創

今回、調査にご協力いただいた熊谷市の介護サービスを受けている11名の高齢者の住環境のモニタリングデータ(温度・湿度・照度・電力使用量)ならびにアンケート回答から、傾向をまとめてみる。
高齢者全体の傾向や熊谷市の高齢者を代表するデータでないことは、あらためてお断りしておく。



外出時に冷房を切って出かけるなどすることで、帰宅時に室温が上昇し熱中症厳重警戒のWBGT値となっている。



クーラーを使用せず、扇風機のみを使用しているお宅では、在宅であっても室温が上昇し熱中症厳重警戒のWBGT値となっている。また、午後は西日がさしこみ、室温が上昇しており厳しい環境で夏季を過ごしている。

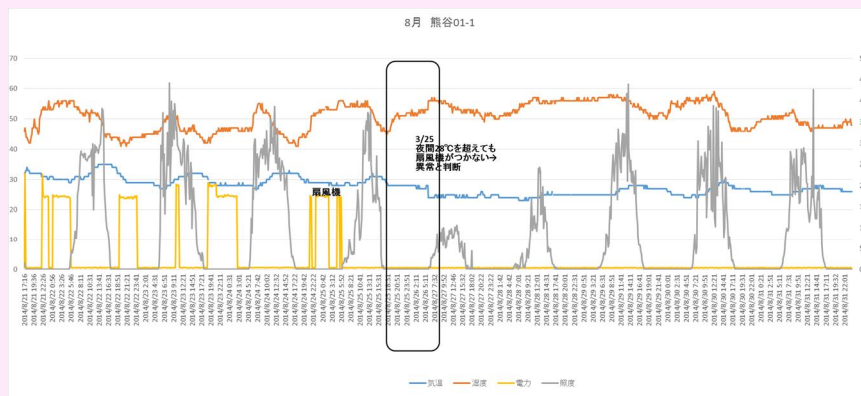
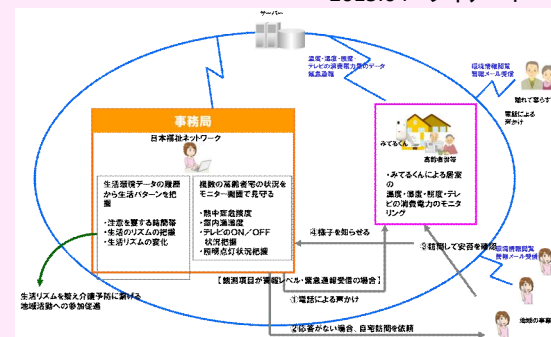
夏季の日中は、クーラーと扇風機の併用が多いが、就寝時にクーラーを使用するのは1事例であった。
夏季の最高室温は、クーラーを使用しても、住宅環境基準の上限を超えており、室温を高め設定していることが推測される。高齢者は、体温の感覚が鈍くなりことから、暑さを感じにくく温度設定を高くすること、加えて従来の生活習慣から暑いのは当たり前という感覚を持っていることが考えられる。

冬季は、熊谷市は寒さも厳しいことから石油ストーブの利用が多い。室温は、20℃を下回ることがほとんどで、寒い室内でコタツを利用したり、重ね着をしてすごしていることが考えられる。

熊谷市における「みてるくん」を使った「地域ネットワークによる見守りの社会実験」

2015.04 ワイアードペコ株式会社

高齢化が進む中、要介護・要支援の高齢者に対し、その人にあったケアを的確なタイミングで提供するため、複数の介護事業者による地域ネットワークが、生活環境モニタリングデータを利用して、高齢者の生活スタイルを把握した上で、その人にあった見守りを行うという**“生活環境データを活用した地域ネットワークによる見守りモデル”**の検証を目的とした。
今回の社会実験のポイントは、同じ地域包括支援センターの区域にある介護事業者が連携し、ケアネットワークを形成したところにある。

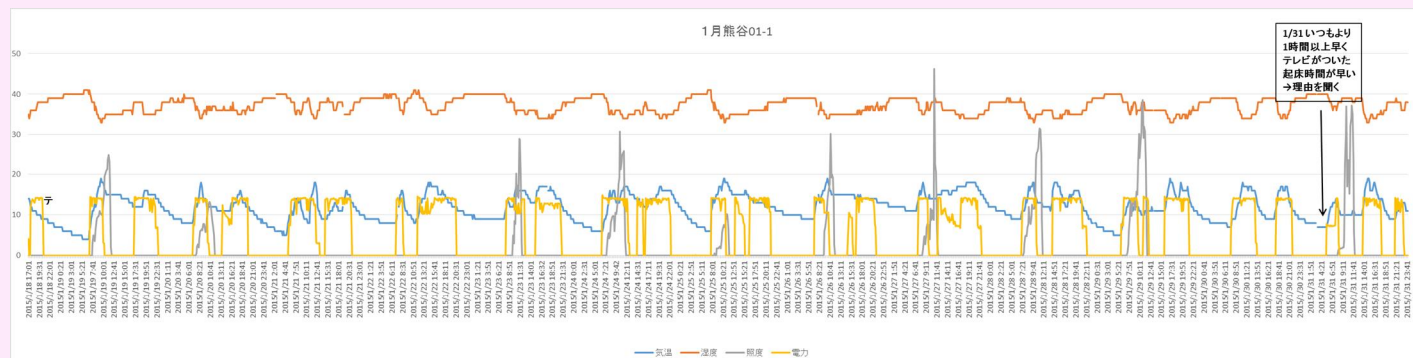


【事例1】

F-Plugのコンセントに挿している扇風機の稼動状態から生活リズムを把握できた。在宅時は、28℃を超えている場合は扇風機をつけ、就寝時も扇風機をつけている。扇風機が稼動しない日中は、外出している模様。
2014年8月21日～8月25日早朝まではその生活リズムが継続したが、8月25日は、日没になっても扇風機が稼動せず、夜間の室温が28℃を超えて、一晩中扇風機が稼動しなかったため、事務局は異常と判断。
対応1→電話を架けるが繋がらない。居宅を訪問するが鍵がかかっている。
対応2→離れてすむ長男の了解を得て、大家さんに鍵を開けてもらって室内を確認したところ不在。その後、泊りがけで外出中と判明。

【事例2】

F-Plugのコンセントに挿しているテレビの稼動状態から生活リズムを把握できた。毎朝、起床するとテレビをつけており、通常朝6時半以降にテレビがついていた。



2015年1月31日はいつもより2時間以上早い午前4時半にテレビがつき起床時間が異常に早いと気づく。
対応1→起床時刻が早い理由を本人から聞き取ると、かかりつけ医の処方薬が変わって朝の食前2時間に飲むように指示されたとのこと。
対応2→かかりつけ医に薬の変更と飲み方を確認。食前2時間は聞き違いと判明。本人に説明。